

窓

—同窓会だより—

No. 91 (平成 23. 3. 1 発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



こんにちは、千田則行です。
昨年の八月、同窓会総会に於いて、中尾哲雄前同窓会長の勇退に伴い、魚津高校の同窓会長に推され、就任致しました。

もちろん、旧制魚津中学校創立以来、百十年以上の歴史と伝統を持つ魚津高校、またそれだけに、多くの有能かつ知名の人材を有する中で、中尾前会長のような知名度もカリスマ性もある方の後任として私が会長をお

受けすることになり、責任の重さを今更ながらに感じております。

さて、まずは自



悩める日本への寄与を

同窓会長 千田 則行

己紹介を少しさせていただきます。

第十三回生として昭和三十三年に入学。丁度その年は、本校の六十周年に当たり、同年八月には、野球部が初の甲子園出場を果たし、後々まで語られるいわゆる「蜚風楼旋風」を巻き起こした年で、その健闘もさることながら、何よりもそのマナーの良さが評価されたのが、好評の原因と今も思っております。

当年は、富山国体も開催されま

したが、当校は野球ばかりではなく、男女バレーボール部、ラグビー部も全国的に知られる、文武両道の学校でありました。

卒業後、大学を経て魚津に帰り、当時より北洋材輸入のメッカであった富山県ですの、木材を扱い、東京への移出も手掛けました。その後、建設部門に移り、社長として本校の改築もさせていただきました。

と言われており、国も危機感を強めておりますが、今一つ、有効な策を打っておりません。

内憂を抱える現状ではあります、在校生の皆さんにはチャンスかもしれません。

まだまだ日本が育んだ技術・知能は健在でありますから、これから社会に打って出る皆さんには、考え方次第では、この国をどうにでも変えうる力があると思います。

しばしば引用される、ダーウインの進化論「強い者ばかりが生き残るのではない。変化にうまく対応出来る者が生き残るのである」の通りだと考えます。

しなやかで、しぶとい人生観をもつて、消沈しかねない社会を救い、高い意識をもつて、社会の改革に取り組んでください。

(にいかわ信用金庫理事長

魚高十三回卒)



太平洋戦争下の中学生

岡山魚高会
山澤 哲三

質実剛健風を成す旧制魚中で五年間學び、太平洋戦争敗戦の年に卒業しました。現在は八十路を歩く年男、戦時下友と歩いた道を記します。

二年生の十二月八日、日本軍はハワイを空襲し、マレー半島に上陸、米英に宣戦を布告しました。三月十日は陸軍記念日ですが、日露戦争にて旅順二百三高地激戦に従軍された高田大尉教官の肉弾戦による勝利を聴講し、戦意高揚が図られたのでした。

三年生に進み、銃所持の基礎軍事教練を受けて、高田教官の下、銃を担い隊としての行動を伴う野外軍事教練実施。帰路、早月川の流に渡河前進の命令を受け、銃を捧げて水深腰迄を進む途中、足を流水に掬われながら全員渡河したが、銃を手放した友もあり、責任を重く感じ探したが一挺見付かりません。翌日、菊池校長先生垂範の揮姿で再度探しました。全員の努力の甲斐なく銃を無くした始末でした。

折しもサンゴ海海戦、戦況は利あらず、国内では学徒出動命令、軍需工場指定、女子挺身隊結成、中学生勤労動員令が発令され、四年生の時は、春秋の農家支援、港湾荷役、飛行場建設の土木作業等、宿泊も伴う勤労動員に従事致しました。

四年生の学年末三月に「軍需工場に中学生の勤労動員」が決定。我々五年生は岩瀬の製鋼工場に動員され、溶鉱炉から

の灼熱の鉦塊の鍛造工程に配属され、昼夜二交替で、鉦塊を挟むやつとこ箸の柄を片方五人で保持し、鍛造面を従業員班長の合図で九十度ずつ変換する作業です。柄の保持・変換の要領は徴用された朝鮮の方に習いました。

夜勤の深夜に、朝鮮の方が顔面蒼白、級友が筵を集め介抱していると、暫くして軍人監察官が現れ、病人の襟首を掴み床に背負投げ。私達は誰ともなく声を合わせて後姿に「馬鹿野郎」と飛ばす。入学以来修業した「武道」の逸脱。仕事は朝鮮の方に習ったのです。悔しさの怒声でした。

国民総決起、本土決戦体制。定期登校、授業の二例を記します。

慶大出身の英語担当「三浦先生」がまず、日米の国力の差を力説され、その上民主主義と人権の自由を説諭され、我国も明治にその底流は備わり継承されていると強調されました。戦後、友人と話を交わした折に「民主主義、人権」は慶大OBの申合せの行為と知った次第です。

生物担当・北大出身の先輩「平崎先生」の授業に男の本分を習得。階段教室にて机上の顕微鏡二台に精子と卵子を設定し、誕生を男女の図解に基づき講義。競争に勝ち選ばれた君達は、母を敬い、己の生命を大切にし無駄にするな！と熱情込めて説得されました。

富山に行つて音楽映画シネベルトの「未完成交響楽」を鑑賞、憲兵に糾され「工場は休日」と言つたにも拘らず、工場に確認される世相でした。

戦争にて前線に立つ大正生まれに続く私達昭和世代に對しまして、人権の自由と生命の尊さを心底に抱き締め、軍国主義との狭間に立ち、教育指導を賜つた先生方の強い使命感に感謝申し上げます。

(魚中四十三回卒)

執行部

新役員紹介

- ①現在のお仕事
- ②魚高生時代の思い出
- ③新役員としての抱負

副会長
鶴見 瑞夫
(魚高十三回卒)

①株式会社太陽スポーツ代表取締役会長、スポーツ用品小売・体育施設施工管理等スポーツ関連全般に携わっており、現在魚高野球部OB会会長も勤めております。

②小・中学生の頃より魚高野球部に入部するのが夢で野球勉強に励んでいたため、魚高野球部で甲子園の夏の大会に二年続けて出場できた事が、卒業後の人生にも役立ち、最大の思い出になっております。

③伝統ある魚高の同窓生の一人として千田会長を補佐し、同窓会の発展に頑張る所存です。



監事

慶野 達二
(魚高十四回卒)

①平成元年に数店の市内のLPガス販売店・店と合併し、東都ガステック株を設立。LPガス供給、住宅機器販売、太陽光発電。

②入学して絵画・音楽・書道の選択科目から一番なのは「書道」だろうと選びました。後に山涛先生は大家になられたことは誇ります。しかし先生には大変世話をかけました。

③末席に加えていただき、魚高に誇りと愛情を持った多くの方々のお陰で同窓会が成り立っていることを初めて知りました。微力ながらお手伝いをしていきます。



常任幹事

澤崎 豊
(魚高三十三回卒)

①魚津市北鬼江で「サワサキ興業」という一般建築用内外装建材の販売、宅地建物の分譲・仲介・賃貸のお店を営んでおります。

②入学早々の応援団による厳しい応援練習が記憶に残っています。今尚校歌をしつかりと歌えますので感謝。また入部した柔道部に応援団長さんがおられ、イメージと違い優しい方で大変安堵しました。

③先輩諸兄のお話をよく聞き、魚津高校同窓会の発展に少しでも寄与できるように努力します。汗を流します。



常任幹事

伊東 潤一郎
(魚高三十六回卒)

①アイティオ株式会社(機械や金型の製造をする会社)の代表取締役社長(二代目)です。

②勉強よりもラグビーという高校時代でした。

③何も分からないので、少しでも早く皆様の役に立てよう頑張ります。



常任幹事

松岡 千穂
(魚高四十四回卒)

①(株)新川インフォメーションセンター小さな会社のため、人事、経理等のほか、アウンサー、番組制作等も行っています。

②部活(放送部)一筋でした。大会前は先生に怒られながらも夜遅くまで番組を作り、仲間たちと熱くなっていました。

③まだまだ経験も少ない若輩者ですが、愛すべき魚津高校のために何かお役に立てばと思います。地元ケーブルテレビ局に在ること利点に、魚津高校の良さをPRします。

『ほくほく線犀潟駅』

—お礼を言うこと—



名誉会長

中尾 哲雄

終戦の前の年の八月、小学校二年生だった私は二歳年下の妹と二人で母に見送られて横浜を発ち、上野駅から富山県の魚津へと向かった。戦争が激しくなり学校が集団疎開を始めた頃である。私たち二人はまず先に父の故郷、魚津へ帰ることになったのであった。新潟県の直江津で乗り換えてしばらくすると海が左手にあることに気付いた。魚津とは反対の北へ向かっていったのだ。慌てて下車したのが犀潟という小さな駅だった。ベンチで反対列車を待つことにしたが、汽車は何時間も来ないという。泣きじゃくる妹をなだめながら見た美しい夕陽とカナカナ蟬の悲しいような声はいまも心に残っている。

どうして分かったのか、近所のおばさんがおにぎり「青ねじ」という駄菓子を持ってきてくださった。家で休みなさい、というお誘いをお断りしてベンチでそれをいただいた。そして妹につられるようにして私も泣いてしまった。

高校に入學して初めての夏休みに、私は家の畑でとれた野菜を担いで犀潟を訪ねた。あの婦人に一言お礼が言いたかったからである。あの時、ちゃんとお礼を言わなかったのではないかと、時折、そのことが気になっていた。しかし、すでに八年が過ぎ去っており、その婦人を見付けることはできなかった。駅周辺にはそんなに多く家はなかったが、みんな心当たりはないという返事であった。

さて、我々は毎日、様々な形で多くの方々にお世話になっている。その場で簡単に「ありがとう」「ありがとうございませう」で済ますこともあれば、時には手紙で、あるいは場合によってはお礼のお品をもって感謝の気持ちを表わすこともある。しかし、お礼のしようがないこともあるし、お礼を忘れていたこともある。さらに気付かないところでお世話になっていることもある。社会からの恩恵をいただく前のごく当たり前のこととして、感謝の念をはじめからもっていないことも多い。私はこれらの感謝の気持ちをまとめてお返しする、まとめてお礼をするのがフィラソロビー（奉仕、社会貢献）のひとつの側面ではなからうかと思っている。いろいろなお世話の役職をお断りしないのは、原点に「犀潟」があるからかもしれない。カナカナの蟬といっしょに泣いた妹は若くして交通事故で逝ってしまった。

この夏、いつも会長室の書棚の隅に置いてある想い出の「青ねじ」をカバンに入れて、五年ぶりにあの駅を訪ねた。あの古ぼけた駅の看板は取り替えられていたが、カナカナ蟬は同じ声で鳴いていた。駅のベンチに座って慌しく過ぎていった日々を思い、その中で多くの方々からいただいたご恩、ご厚情にあらためて感謝の念を強くした。

私は毎日、五、六通の手紙を書く。その手紙はお礼である。「我が家のきまり」の第一条は「お礼を言う」だ。

近年、メール、インターネット、そして携帯電話でのコミュニケーションが多くなり、それにつれて「頭を下げる」という行為が忘れられていくように思う。「お先に」と譲っても会釈する人が少なくなった。私は時折、大学で講義をしているが、はじめに全員立ってお礼をし、講義が終わったときも全員に立ってもらっ

てお辞儀をすることになっている。

我が社の家庭教育フォーラム（子どもを預けて夫婦で参加）でも、家庭における「お礼」をテーマすることが多い。向き合つて会話し、時には自筆でお礼の手紙を書く。社会のあたたかさを取り戻すために学校はもちろん、家庭、企業、社会で軽く会釈をする、頭を下げてお礼を言う、そんな運動を展開してはどうだろうか。（このほどJ.Rから連絡があり犀潟駅の古い看板をいただくことになりました。）（ITホールディングス株式会社代表取締役会長 株式会社インテック 代表取締役会長 魚高七回卒）

このお話は、同窓会総会後の記念講演で語られた内容の一端ですが、文章は「中等教育資料十月号（発売元きょうせい）」に掲載されたものです。

同窓会のつどい

総会は、八月十三日ホテルグランミラージュにて開かれました。

筒井校長からの学校の近況報告の後、十年間会長を務められた中尾哲雄氏が名誉会長に、副会長の千田則行氏が新会長に就任されました。その後、中尾氏が会長退任の挨拶に代え、「紅はわが心、私の歩み来た道」と題して記念講演をされ、魚高時代の思い出、経営者としての歩み、ふるさとへの思いを語られました。「ふるさと、とりわけ母校は心の支えであった」「夢は人を輝かせ希望は人を大きくする」との大先輩の語に、同窓生一同熱心に耳を傾けました。

懇親会は、下澤弥生さん（三十七回卒）の司会で、幹事学年代表吉澤浩司氏（四十一回卒）の開会の挨拶から始まりまし

た。千田新会長の「学校の改革に協力したい」との挨拶に続き、加藤敏久元校長の祝辞、長谷川政一東京魚高会会長、黒田富雄大阪魚高会会長の近況報告があり、澤崎義敬魚津市長の乾杯の発声で開宴、和やかな雰囲気の中で親交を深めました。魚中、魚女、魚高の校歌を各同窓生とともに高らかに合唱し、来年度幹事学年代表の米田哲氏（四十二回卒）が幹事引き継ぎの挨拶を述べられました。会長を勇退された中尾氏に花束が贈呈され、全員で「ふるさと」を合唱、室澤基範兵庫魚高会会長と筒井慎一校長の主唱で万歳を三唱し、盛会のうちに閉会となりました。



第12回

同窓会ゴルフ大会

平成二十二年九月二十三日（木）

順位

優勝 岩崎 脩一

準優勝 石崎 由男

三位 稗田 康則

四位 慶野 達二

五位 内生蔵 太郎



優勝した岩崎さん（左から二回目）と最高齢女川清さん（左から三回目、魚中四十五回）

平成22年度 同窓会執行部役員名簿

役 職	卒回	氏 名	役 職	卒回	氏 名
名誉会長	高7	中 尾 哲 雄	常任幹事	高36	伊 東 潤一郎
会 長	高13	千 田 則 行	常任幹事	高44	松 岡 千 穂
副 会 長	高13	鶴 見 瑞 夫	監 事	高14	慶 野 達 二
副 会 長	高15	小 杉 紘 平	会 計	高37	大 崎 雅 子
副 会 長	高25	山 本 芙 紀 子	顧 問	女16	寺 島 美津枝
幹 事 長	高18	若 林 忠 嗣	顧 問	中49	石 川 雅 朗
常任幹事	高24	美 谷 隆 一	顧 問	中50	坂 本 信 義
常任幹事	高24	四十物 直 之	顧 問	定 9	生 駒 晴 俊
常任幹事	高33	大 橋 聡 司	顧 問	高 7	岩 崎 脩 一
常任幹事	高33	澤 崎 豊	顧 問	高 9	江 幡 忠 子

同窓会連絡係 (平成22年度卒)

- <1組> 原 直仁・赤松 佳織
 <2組> 伊東 大地・大崎 蒼
 <3組> 酒井 優弥・浜浦 裕子
 <4組> 上田 芳史・藤井 幸華
 <5組> 島田 拓実・中山 菜
 <6組> 政二 勝文・萩原 四季

学校便り



ふるさと文学情景作品コンクール金賞受賞
上浦 眸さん(1年) 知事と面談



生徒とPTAの懇話会「虹の会」



図書委員園児への読み聞かせ実習

体育大会

(二〇一〇年九月三日)



魚高祭

(二〇一〇年
九月十七・十八日)



魚津高校は平成23年度から

普通科単独校へ

理数科は募集停止

個々の進路希望や志望校の受験内容に応じて数学や英語を1クラス2講座や2クラス3講座などに分ける、多展開授業を実施します。

「虹の会」は、2009年より始まり年2回実施しています。

当時の生徒会長高岸さん(現3年)が生徒とPTAの架け橋となるような会にしたいと命名しました。

これまで服装や部活、魚高祭などについて話し合ってきました。

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会
〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>